

決算説明会における質疑応答内容の 開示と情報の非対称性との関係

張 瀟 月
金 奕 群

目 次

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. はじめに | 4. 分析結果 |
| 2. 決算説明会における自発的開示 | 5. まとめと今後の課題 |
| 3. 仮説とリサーチデザイン | |

日本では、フェア・ディスクロージャー・ルールに関する規定が定められたところであるが、実際には上場企業による「重要情報」の認識が異なっているため、決算説明会に関する資料の開示程度にはばらつきがある。本稿では、決算説明会における質疑応答内容の公開による情報の非対称性の緩和効果について分析する。分析の結果、質疑応答内容が公開されることによって、投資家間の情報の非対称性が緩和されることが明らかになった。

1. はじめに

決算説明会とは、企業（主に上場企業）が自社の経営に関する決算状況を説明するために定期的に開催する会合である。決算説明会は、プレゼンテーション・セクションと質疑応答セクションの二つのセクションで構成される。プレゼンテーション・セクションでは、経営者は、自社の業績の

解釈を提供するとともに、決算説明会の参加者が希望すると予想される事項に関する追加的な情報を自発的に開示する。経営者は、このセクションを利用して投資家に開示したい情報を説明会参加者と共有する。質疑応答セクションでは、アナリストや他の参加者が、プレゼンテーション・セクションで開示された情報や経営陣の解釈に疑問を投げかけたり、プレゼンテーション・セクション



張 瀟月（ちょう しょうげつ）

早稲田大学商学研究科博士後期課程在籍中。2019年3月早稲田大学商学研究科修士課程修了。現在、決算説明会における情報開示に関する実証研究を行っている。



金 奕群（きん えきぐん）

早稲田大学商学大学院助手。2017年9月早稲田大学商学研究科修士課程修了。現在、XBRLによる財務報告に関する実証研究を行っている。